

名 称	玉東町地域教育力体験活動支援センター
所 在 地	〒869-0312 熊本県玉名郡玉東町大字白木1番地1
連 絡 先	TEL : 0968-85-3609      FAX : 0968-85-2276

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口 玉東町 5, 722人

玉東町は熊本県の北部、玉名市の東に位置し、東は植木町に、南は熊本市に連なる金峰山オレンジベルト地帯の一角をなし、南から北に向って緩やかに傾斜する地帯にミカン産地を形成している。町の中心地をJR九州鹿児島本線と国道208号線が並行して走っており、これらを中心に工場、店舗、住宅街が広がっている。町内には2小学校と1中学校があり、「生きる力を持つ地域の宝である児童生徒を育てる教育」を推進している。また、地域教育の基本となる家庭・学校・地域・行政が連携して子どもたちの健やかな育成を推進している。

## コーディネートした事例の名称、概要、特色

### 名称 「玉東町特別大学」

玉東町立山北小学校と玉東町教育委員会及び玉東町地域教育力体験活動支援センターが連携し、山北小学校の総合学習の時間を利用して学習した玉東町の歴史について、玉東町中央公民館において「玉東町特別大学」として実施した。

体験活動の内容としては、本町は日本最後の内乱で有名な「西南戦争」の最も激しい戦いが繰り広げられた田原坂の戦いの地の一部に位置し、「田原坂」の激戦が繰り広げられた史跡を多く残す地域である。しかし、そのような環境にありながら、西南戦争に関する子どもたちの知識、興味、関心は、さほど高いとは言えない状況であった。

そこで、山北小学校では、総合的な学習の時間に子どもたちを西南戦争と出会う機会を持たせることで、自分たちが生まれ育った故郷の歴史を知り、山北のよさ、すばらしさを再発見させることができると考え、山北歴史探検隊の学習をスタートさせた。

そのような活動に取り組む中で、玉東町教育委員会主催の「特別大学」で講師として、山北小学校6年生児童が、1年間に総合学習で調べ学んだことを町民の方々に発表する機会をもち、子どもの発表の絶好の場ととらえ実施することとなった。実施日時は平成18年2月27日（月）午前10時50分から約1時間、玉東町中央公民館、大研修室で開催した。

この体験学習により、児童が故郷の歴史を知り、山北のよさ、すばらしさを再発見するこ

とができた。また、総合学習で分からないことを調べるために、町内の町文化財保護委員、地域の方々、教育委員会職員、地域教育力体験活動支援センター職員の方々等と児童が触れ合うことができ、新しい歴史的分野の発見や今まで知らなかった色々な方々を知るきっかけとなり、双方にメリットのある活動となった。

## コーディネートの実際

地域には、いろいろな知識や特技を持った人々が数多く存在している。また、地域には、自然や文化財など多くの教材となる地域素材がある。こうした地域の人材や資源を学校の教育活動で活用したり、自然や文化財等の様々な事柄を教材化したりして、学校での教科学習や特別活動に活用できるようにすることが必要である。

玉東町地域教育力体験活動支援センターでは、このような人材・素材の要望、要求に答えるためセンターを設置し、広く依頼相談を受けている。特に、今回、玉東町立山北小学校と玉東町教育委員会から玉東町地域教育力体験活動支援センターに、山北小学校の総合的な学習の時間に子どもたちを西南戦争と出会う機会を持たせることで、自分たちが生まれ育った故郷の歴史を知り、山北のよさ、すばらしさを再発見させることができればと考え、山北歴史探検隊の学習をスタートさせたい旨の相談があり、実際に児童に教授いただける人材や町内の戦跡、文化財の場所等を含め学習の調べについての方法や行政、地域等について教えていただきたいとの依頼があった。そこで、玉東町地域教育力体験活動支援センターのコーディネーターが玉東町立山北小学校と玉東町教育委員会職員に対して以下の件について指導助言等を実施した。

- 教育委員会を初め町内の自然、地域の人材を訪ねるための学習課題の設定。
- インターネットを通じて課題の学習。
- 学習課題から個人課題を設定し、追求する。
- グループに分かれ、発表会の準備をする。
- 教育委員会職員を対象に発表リハーサルを行う。（この発表を御覧になった教育委員会職員を通じて、特別大学発表についての諸注意を話していただく。）
- 玉東町特別大学の講座に参加される町民の方々に西南戦争をはじめ町内の自然・環境についてパソコン・プロジェクターや、模造紙・広用紙を用いて詳しく発表する方法。また、発表会に参加されている方にクイズ形式で質問を実施し、また、参加者の質問にも答える内容の準備。

小学校6年生教諭の要望に対しては、地域の人材や教育資源についての情報を玉東町地域教育力体験活動支援センターのコーディネーターが提供した。町内にある、社会福祉協議会、文化協会、子ども会育成会、地域婦人会、老人クラブ、PTA等のそれぞれの団体と連携をとり、小学6年生の子どもの学習に支援をお願いした。また、地域人材の活用として、玉東町地域教育力体験活動支援センター登録の人材バンクの活用や町内の各学校で把握している人材の提供、教育課程の中での人材派遣（授業に活用しやすい単元や教科の研究）を実施した。また、地域の教育資源の有効活用として、社会教育施設や福祉・保健施設等（中央公民

館・町体育館・町営グラウンド・デイセンター・保健センター・東部環境センター)の活用や地域に存在する教材(ひと・自然・文化財・伝承文化・企業等)の再確認と活用も進めた。そして、地域との触れ合い活動として、学校行事の中での地域住民との交流の場の提供や促進も進めた。

以上の件について、指導助言をすることによって「玉東町特別大学」に向けた具体的な方策が示されたことで、コーディネーターの役割の方向性が見えてきたし、実際に効果のある成果が得られた。校内で取り組んでいる総合的な学習の時間には、発表の場は絶対不可欠である。今回の特別大学での講師としての発表は、自分たちが調べたことを地域の方々に聞いていただく機会として大変有効であった。また、子どもたちの調べたことを分かりやすく伝えたいという思いが、学習意欲を高め継続させる一因となっていた。さらに、学校の学習の様子を地域の方々に見ていただくことは、今日よく言われる「開かれた学校づくり」の一環ともなった。

また、参加された地域の方々の感想の中にも、「地元にいながら知らないことがあり、勉強になった。」といった感想が多く見られ、地域の方々の学習の場としても効果があった。

このような活動ができたのは、子どもたちの学習に最初から最後まで協力いただいた町文化財保護委員会、地域の方々のサポートがあったからだと思う。

しかし、実際にコーディネートを実施する中で課題も見えてきた。今回の場合、学校で総合的な学習の年間計画を立てたときには、「特別大学」は計画していなかった。しかし、地域の方々をはじめ多くの方々の協力で学習効果があり、また、発表を通して成果があがり、年間の行事計画として位置付けが出来るようにまできてきた。しかし、総合学習の時間が年間を通じて規定されており十分な学習ができなく、発表の際の質問に充分答えられないことがあり一層の学習効果が上がる年間計画が必要であると反省させられた。今後、この発表に終わるだけでなく、年間の学習の成果のまとめとしての報告書づくりや、保護者や地域の方々へ、この学習成果を伝えていかなければならない。

地域にある教育資源の再発見ができ、子どもたちの好奇心も感じられた。また、異年齢間の交流や地域の方々の接点を持つ良い機会となった。子どもたちに発表という機会を設け、その発表に向って学習する体験活動が、最後までやり遂げる喜びや苦しみを体験する経験となった。このような成果の裏には、支援いただいた多くの関係者の努力と支援の連携が有効に働いていたようである。

最後にこの「特別大学」は学校と地域と家庭を結ぶ架け橋となり、継続的な実施が求められている。そのためにも、この支援センターの果たす役割が今後ますます高まってくるしそうしなければならない。



6年生2班の発表



熱心に聞く児童と参加者



6年生4班の発表



6年生5班の発表

執筆者職・氏名：玉東町教育委員会 審議員 清田 祐幸